

令和5年度 第4回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日時：令和6年3月29日（金）18:30～20:00

場所：阿波海南文化村 海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中10名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川課長補佐
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子

■ 会次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議事
議案1 パブリックコメント結果について
議案2 学校再編基本計画等（案）について
- 5 閉会

■ 議事

（皆津委員長）

資料の説明後意見を受け付けます。事務局より説明願います。

（事務局）

資料1パブリックコメントの実施結果についてをご覧ください。町民の皆様からの意見聴取、パブリックコメント募集は令和6年2月5日から令和6年3月4日まで、町のホームページ、窓口で募集しました。出された意見は1件でした。出された意見を読み上げます。（意見読み上げ）

回答としては、海部小学校はご意見のとおり、町内小中学校のICT教育推進校として、学習でのICT活用について先進的な取り組みを行っています。海南小学校と海部小学校の統合に合意が得られた場合において、海部小学校で得られたICT教育の経験を活かし、魅力ある学校教育に取り組んでいく事ができます。また、小学校区が大きくなり、子どもたちは海南と海部地区のことを学んでいきますので、より地域の継承が進んでいくとも言えます。クラス替えのできる規模になっても小規模校の特色を活かしていく事もできます。教員の人数はクラス数によって決められています。海部小学校は1年生と6年生が単式学級数で2年生と3年生、4年生と5年生がそれぞれ複式学級となっています。統合後は各学年で1学級は確保できます。町費教員の配置を増やすなど工夫を行うことで、現在の海部小学校と同様の形となります。海部地区のアンケートの回答については、3つの地区合計の中で16.5%でしたが、海部地区だけみると、144件配布し、86件回収がありましたので、回収率は59.7%となっています。学校の再編統合は、まちづくりの取組では重要なこととなります。地域の魅力を継承することや子どもたちの教育が魅力あるものにするには、地域の方々のご関りがあってこそです。引き続きご支援ご協力をいただきながら、町の活性化に寄与するよう取り組んでいきます。

学校は本来教育施設であり、災害時における教職員の果たすべき最も重要な役割は児童生徒等の安全確保・安否確認、教育活動の早期正常化であります。海南小学校は、大規模地震や津波等の非常災害時には、大里・四方原地域住民の指定避難場所としての役割も果たしています。屋上への屋外避難階段の入口部分には、プラスチック板が設置されており、非常時はこれを壊して階段内に入り、屋上へ避難することができるようになっています。屋上に約300人が避難できるスペースを確保しており、津波の水が引くまでは屋上に滞在することができます。体育館の居住環境整備では、照明のLED化・移動式エアコンの設置、アクセスポイントを設置しWi-Fi環境も整備しています。と回答します。意見の計画への反映はありません。

資料の3ページ、基本計画書の修正を1箇所あります。これは「廃校」という言葉の印象がきついと感ずるため、「再編統合後」の跡地利用とします。資料2は意見を反映した基本計画の最終案です。

(皆津委員長)

それでは、ただ今の事務局の説明は、パブリックコメントで意見募集し、1件意見が提出されました。意見は計画書の修正が伴うものではなく、参考意見として受け止めています。また、廃校という言葉が再編統合後の跡地利用と表現を変えるという事でした。意見や質問はありませんか。

次の議題に移ります。事務局より説明願います。

(事務局)

資料2をご覧ください。今後の流れについて説明します。この案は、学校再編基本計画の計画期間中の目標を示しているもので、地域、庁内、県との調整をしていないものです。この資料は公開するものではないことご注意願います。資料は回収させていただきます。

令和6年度は、基本計画の説明を海南地区・海部地区・穴喰地区で行う予定です。基本計画が策定された後、広報啓発活動を行います。4月に、基本計画を町のホームページで公開、町の広報紙5月号に基本計画の特集、6月号に基本計画の住民説明会開催告知を予定します。9月号に住民説明会開催結果を予定します。9月号については、住民説明会の状況次第で結果を公表しないこともあります。住民説明会は6月の下旬に開催、会場は3庁舎を予定しています。学校のあり方検討委員会は3回程度の開催を検討しています。

2枚目をご覧ください。基本計画期間中の学校再編の流れです。海陽町教育振興計画が令和7年度に満了となるため、令和7年度中に計画策定に入ります。次期教育振興計画は学校教育の指針となるものであり、再編統合を踏まえても魅力ある教育方針を立てていくものです。教育のあり方をしっかりと定めて、学校再編統合を進めていくこととします。再編統合の流れは令和6年度に基本計画の住民説明会を開始し、海部小と海南小の合意形成に向けて、地域に検討組織を立ち上げ学校の統合に向けて検討していきます。現時点では令和9年度から統合校をスタートする予定となります。海陽中と穴喰中の統合、穴喰小と海部小・海南小統合校との統合についても地域との合意形成に向けて話合いの方法を検討していきます。基本計画の計画期間令和15年度に1校1校体制スタートを目標としています。学校のあり方検討委員会は令和6年度まで、令和7年度は計画策定委員会となります。その後の委員会については検討します。

(皆津委員長)

それでは、ただ今の事務局の説明について、資料2はあくまで再編統合の流れの目安であるということで、令和6年度の住民説明会を行って地域の意見を聞きながら進めていくものであるという

ことです。この資料は公開するものではありませんので、ご注意ください。また、資料は回収するということです。ご質問ありませんか。最近はホームページに力を入れがちだと思いますが、紙媒体も用いて、一人ひとりの町民に丁寧にわかりやすく発信していくことが大事だと思います。

(事務局)

答申案についても紙媒体を用い、加えてホームページも活用しながら進めます。

(皆津委員長)

丁寧な説明と発信をお願いします。

(事務局)

6年度の流れ、再編の流れは方針をもとにしながら、ということと、第3期教育振興計画が令和7年度で満了ということで、今後新しいものを作る際には、再編統合の内容を含めながら計画を策定します。2校2校体制や2校1校体制など、こうした形で進めたいです。あくまでも、資料のとおり進行することをお約束できるものではないです。

(辻委員)

中学校再編を令和8年度までに立ち上げ検討し、点線で表示している穴喰小統合の話をして、中学校も流れを並行し統合することで、1校1校へいくということでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通りです。どのタイミングで中学校再編が進行するかはわかりませんが、令和15年を目標に1校1校体制にします。途中2校1校体制も考えられます。その場合は1校1校体制にして、地震津波に配慮した高台にしっかりした施設を設けるよう進行する可能性もあります。

(皆津委員長)

小学校と中学校は同時並行で進めるということですね。町民に周知しないといけないので今から見通しを持っていくことは重要です。意見はどうでしょうか。

地域の方に流れをしっかりと知ってもらい、責任ある発信を行っていかないといけないので、よろしくをお願いします。

(事務局)

町のホームページで委員会の議事録も公開しています。どういうことがどう決まったのか、ということを丁寧にお知らせすることを続けます。

(皆津委員長)

今後の流れについてご質問・ご意見ありませんか。

(谷本委員)

パブコメの意見あったらいいと思って子どもや保護者・地域の方に声かけをしました。子どもたちの中では、「早く合併したほうがいい」と「少人数のほうがいい」の意見がありました。半々ぐらいだと思います。地域の方も「学校残して」の声もあれば「しょうがない」の意見もあり、子どもが

減っているので、学校残していきたい思いがあるけど、現状見ながら話し合う必要があるなと思います。海南の方でも、合併に不満ある方もいれば、早く合併の意見もありました。意見出すことは難しいのかな、と思ってます。

(皆津委員長)

子どもの意見は拾い上げにくいです。現場の先生が拾い上げて発信する方法しかないのだろうか。子どもの意見も大事なので聞いてみたいです。現場の先生に意見を拾い上げてもらって、こうした会議の場で発信することが必要と思いました。

(小山委員)

保護者の方に雑談の中で尋ねみたら、宍喰の保護者は「しょうがない」の意見が多いです。中学校の子どもたちは「クラブで交流しているので対応できる」、逞しさを感じました。保護者は仕方ないととらえている印象でした。

(皆津委員長)

宍喰は地理的にも離れてます。子どもの将来のことを考えると保護者はそれでもいいと思うのでしょうか。

(元木委員)

アンケートの意見が多くあったことが印象に残っています。なので、これからの住民説明会の中でどんな意見が聞けるか期待しています。変更できないこと、少子化が早いので統合の話が出ていることを丁寧に説明することが大切だと思います。会議の場にずっと出ていたとしても理解できないこともあるので、統合することになったときにあたふたする方など、いろいろな方の意見を受け止め、「子どもたちのためを思って進めている」ということの伝えるような伝え方が大事だと思います。

(皆津委員長)

同感です。ここからがスタートだと思います。これから多くの課題が出てきます。それらにどう対応していくのか、考えていかなければいけません。

(原委員)

学校再編の件を、いかに地域住民の方に理解してもらうかが大切だと思います。広報誌やホームページをどれだけの住民の方が自分事として見ているのか、その説明で十分なのか、全然知らない方もまだまだいると思います。ホームページを見ない方も多いと思います。掲載する情報量を少なくして回数を多くするなど、打ち出し方を小分けにしてみるのはいかがでしょうか。

(皆津委員長)

海部地区について、地域の方が自分の意見を学校に発信できる機会などありますか。

(三浦委員)

全くないです。私も委員会に参加するまで学校がどのような状況にあるのかわかりませんでした。

(辻委員)

住民説明会について老人会のメンバーと話している。時折、広報見て学校の編成の意見が出ます。「子ども孫もないから、町がいいと思う方法で進めて」という意見を持つ方もいます。また 20 代 30 代の方だけでなく子どもや孫のいない方も住民説明会に来ていただけたらいいと思います。一町民として考えてほしいです。子どもや孫がいないと当事者意識は持ちにくいので。高齢者の方が学校の動き・編成に関心を持つための広報があってもいいのでは。

(事務局)

住民説明会は地区ごとにするとともに、希望する団体へ出前説明会を行うことも考えています。

(皆津委員長)

住民説明会は何か所で行いますか。

(事務局)

海南・海部・央喰の3か所です。加えて要望があれば、高齢者クラブ連合会、老人会といったところへの出前説明会も行いたいです。

(皆津委員長)

直接関係する保護者だけでなく、様々な地域の方が説明会に来ていただけるように広報を考える必要があると思います。地域の方は大事です。

(吉成委員)

子どもや孫が小学校・中学校に通っている保護者や祖父母にとっては切実な問題で、住民説明会をしてもいろいろな意見出ると思います。それに反して子どもが学校に行っていない人、学校にかかわりのない人達に対していかに広報を行い、関心を引き出すのかということが難しいと思います。まず説明会に足を運んでもらうことが大変です。自分の周りでは全く学校の統合の話が出てこないし、そうした話を振ってもあまり盛り上がりません。

(皆津委員長)

学校再編統合は大きな問題ですね。何回もいいますが、保護者だけでなく地域の方へ説明が必要です。広範囲にわたって地域の方に話を聞くこと大事です。

(三浦教育長)

様々なご意見いただきました。基本計画について保護者を含め地域住民の方々に具体的に説明します。広報で「来てください」と呼びかけたとしても多くは集まらないかもわかりません。「地域の方にいかに呼び掛けていくのか」が大きな課題のひとつだと思います。団体からの要望があれば説明も行いたいです。3町が合併して15年で子どもの数が半分になりました。今年の3中学校の入学35人で、これは一クラスの人数です。こうした状況を見て見ぬふりはできません。より良い教育環境を作っていくのが大人の責任です。今回3年にわたってあり方検討委員会を13回開催し、いろいろな意見をいただいています。委員の皆様は保護者、学校、地域の団体など、様々な主体の代表として意見をいただいています。そこに加え、さらにいろいろな意見をこれからいただく必要があります。子どもたちのことを考えることが一番です。財政も無視はできませんが子どもの教育環境が

大事です。いい形で説明会を行いたいと思います。

(皆津委員長)

「仕方ない」というあきらめの統合ではなく、よりよい統合のありかたを考えたいですね。教育委員会を中心に、各学校との連絡を密に環境づくりを行うということで。他にありませんか。

(事務局)

来年度の開催は3回予定です。PTA会長は交代になります。住民説明会の事前の会や、それぞれ説明会の状況を共有するなどを予定しています。

閉会